

2011.6.15「国会延長？被災者より自分の延命しか考えない菅内閣」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は6月15日であります。国会の会期末が近づいてきており、来週の22日水曜日に一応閉会することになってはいますが、まだ正式に民主党から会期末についての提案が全くなされていません。新聞などでは会期を延長するという話も出ていますが、自民党に対しては正式に何の提案もありません。

また先々週、いわゆる内閣不信任案を我々野党が提出致しましたが、否決されて菅内閣はまた延命されることになりました。これがとんでもないペテンであったため、この後民主党の中からも菅内閣に対して反旗を翻す方がたくさん出てきました。特に参議院ではこの声が強いです。

そして今週、民主党で両院議員総会を開いて菅内閣に終止符を打とうという話がされていたようですが、結局その両院議員総会ですら、いつ開けるか決まらないようです。そして、当の菅氏は「参議院で復興対策特別委員会をやります」とのたまひ、瓦礫の撤去や、様々な震災復興の目途がつくまで、続投するとますます強い意欲を示しています。しかし忘れてならないのは、東日本大震災が発災して3カ月も経っているのに、この間に瓦礫の撤去が進んでいないばかりか、二重債務の問題も全く片が付いていないし、更に言えば、仮設住宅も十分出来ておらず、完成したと思ってもそこに住む人がいないということなの

です。何故このようなことになってしまうのでしょうか。それは二重債務などの問題で事業再開を再開するに向けての道筋が見えていないからです。避難所を出て仮設住宅に移ったとしても、そこで生活ができなければどうにもならないと躊躇される方が多いのです。以上より菅内閣がこの3カ月何も手を打ってこなかったツケが震災の復興復旧を遅らしていることは誰の目にも明らかなのです。その菅内閣から「これから復興復旧の為の第二次補正を作りますから、国会を延長させてください」と今更言われても、本来そのような話はもっと初期の段階からやっておかなければならないことであり、自らの命が尽きかけてくる度に小出しで「今度は二次補正をやりますから」と言ってみたり、「二重債務の問題も片を付けますから」と言ってみたりすること自体がおこがましいと思うのです。

ところが、そういった問題になると途端に、メディアや民主党自身が菅降ろしのトーンを下げるのです。確かに菅氏が仰るとおり被災地の復興の為の補正も組まないといけませんし、二重債務の問題、瓦礫の問題等に片を付けなければなりません。それらを提案されて我々が拒否することは、間違っているように取られてしまう為、賛成せざるを得ない展開になってしまうのですが、それこそ菅総理の思うつぼなのです。言うなれば、菅氏や民主党政権がやっていることというのは被災者を人質に取って自らの延命の為に利用しているのであり、問題を小出しにすることによって自分の命脈が尽きることなく続けられる

という話なのです。彼らは被災者のことなど何も考えておらず、自らの政権の延命しか考えていません。だから3カ月が経とうとしているのに何も解決出来ていないわけです。従いまして、菅総理が辞めない限り震災復興は不可能であり、私たちはこのことを今一度国民にしっかり説明をしなければなりません。

世論調査に目を向けてみますと菅総理の支持率は低空飛行を続けております。ところが自民党の支持率も下がっており、ここ最近では民主党の支持率が微増するといった不思議な世論調査の結果になっています。私は世論調査の結果はその都度気にする必要はないと思っていますが、今回の結果は意外なものであり、我々も反省し検討すべきだと考えています。つまり今回の世論調査の結果は、菅氏が総理として職責を果たしていないということは皆様共通の見解だと思うのですが、そのような中でも民主党の支持率が上がってきているのは、民主党内でも菅氏ではもう内閣が持たないと言い始めており、次の内閣を期待する意味での支持と見ていいでしょう。逆に自民党の支持率が下がっているのは、その菅内閣を退陣に追い込むべき立場にある自民党が、先日の不信任決議で失敗してしまい、自民党を含む野党に菅内閣を退陣に追い込むカードがなくなったから、菅氏に反目し始めた民主党に期待することにした結果であると思われます。真相はわかりませんが、民主党はこのような状況で選挙をすれば確実に大敗を期するわけで、菅氏がこのまま総理の座に居座ることも困るけれども、菅氏の後継者もないわけです。つまり「帯に短し、襷に長し」で全く適

当な人材がないわけです。このような状態で菅氏を引きずり降ろせば確実に解散総選挙になります。そのような状況もあってか両院議員総会の開催を求める声もトーンダウンし、とりあえず菅氏の続投の雰囲気醸成され、また息を吹き返してきたのです。まさに菅氏はそのような民主党内の空気を察知し、弱みに付け込んで、「俺のことを駄目だと言っても俺に代わる人間はいないし、仮に総理を変えたとしても長く続かないだろうから、すぐに選挙をせざるを得ないけれど、あなた達はそれでいいの」と考えているのです。菅氏が総理の座から降ろされることになれば民主党政権になって2人の総理大臣が2年あまりで変わることになります。3人目の総理大臣も選挙を経ずに決めるということは、今まで民主党が主張してきたことに反するわけですから、当然解散総選挙になるわけです。その時民主党は大幅に議席を減らし、風前の灯になるでしょう。その状態を逆手に取って菅氏は「今は嫌でも俺を支えなければダメだろう」と思わせているのです。果たしてこれが国民のことを考えたものと言えるでしょうか。私は全くそのように思いません。自らの政権の延命のための妥協だけが、今民主党の中で行われているという風にしか見えないのです。私達は断じて、このような出鱈目を許すわけにはいきません。参議院の場で問責の提出を含めて、しっかりと彼らの出鱈目を追及していきたいと思っております。

今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。